

最優秀賞

馬を飼う

沖縄県立泊高等学校 一年

関谷 朋子

そしてどうせすぐ後に知らされる
今さらの

銀河

犠牲を聞かされて、私は帰って来て

またここに立つ

夜ではない方の夜を

つまりは生きている方を生きているあなた

が

信じてくれ

ふつうにはならない私と生きていない国のために

馬でしか行けなかった土地みたいに

都の

赤い花火みたいに

風に旗が撃たれた分だけ祈った事になるなら

この足は、弾弾とした心は望む方角にもう降ってい

るのかもしれない旗は綿一〇〇%

だからすぐには乾かずに

その空の青は辛く辛く

(あなたと私にとって)

ふつうだった

きつとそこで再び

生きている馬を飼えるのだ

さようならはもう少しがんばるべきだ
そうすればもっと足が早くなる
出来たてのシフト表を持って町に帰れば
遠くに行きたい訳は消されて
分かりやすい質問と俯瞰
八月の時間は
丘の煙と味のない方の血の味がした
嫌
したかった
私から見
答えは返ってくる予感と
近代のぼったくりを抱えて
青い足音と踏まれる花卉の匂いを考える
時
私の中身はもう、ここにはいないのだ